六十周年に想う～土佐のヨサコイ～

岩井　嘉信

（序）

今日は青空　七月七日（七夕）の朝　梅雨も終わりかな。

「髪」お願いします…妻への一言…椅子と道具（ハサミｅｔｃ）を前庭に構える。

四十年来の行事です。

今年は梅がよく実り、二kg程とりました。梅干しに…、「ミニトマト」の赤い実、ブラックベリーとか赤から黒い実にー朝のジュースの一部ー

ゴーヤも背をこえるほどに青（緑）の実が垂れ下がっています。

（章１）「ＹＯＳＡＫＯＩソーラン誕生秘話」《池上志郎（後記）談》

北海道三年生だった長谷川君が高知の踊り子グループを訪ねてきたのが最初の出会いでした。彼が北海道で「ヨサコイ踊り」をやりたいの熱意が私の心を打ち、協力をしようとグループ（セントラル）で北の国へ行く決心をしました。

平成四年一月のことでした。

（章2）第一回ＹＯＳＡＫＯＩソーラン幕明け

札幌大通り公園南側……土佐のグループのリーダーの腹の底からの気合い…「ヨイヤッサー」アンプを最大限に掛け声と共に百人の踊り子が「ヨイヤッサー」と…

テンポの早いディスコ系のリズムに合わし列が崩れすでに二列、四列と素晴らしいステップで鳴子を打ち振り踊り狂う。「ヨッチョレ」よ、「きてみいや」…汗を流し、体をぶっつけ合う、…それでも洗練された踊りでした。

南一条四丁目に集まった十万人の群の心をがっちり掴んだ一瞬でした。

（章3）どこの国から来た～土佐～分からん　四国の高知じゃー

この若さと『躍動感」「リズム」涙ぐんで応援してくれた老人の手に赤い「鳴子」が握られていた、きっとこの祭りは続けてネ！

何時の日か「ヨサコイ」は北海道で育ち、全国区になる。私達は種をまいた。花は若者達が咲かせてくれよう。でも、「実」は高知が取る。土佐の皆で大きな花と実を取ろうと心に決めた。

（結）今日ＹＯＳＡＫＯＩソーラン開始より二十一年経つ

今、全国の「ヨサコイ人」は、故郷一番地高知に向かっている。
十年前の参加チーム…北海道で三百五十、高知百三十…
今年は北海道二百五十、高知は二百十五（現在増えている）
「土佐の高知のハリマヤ橋で……」ヨッチョレヨ！！

（追伸）１

孫娘（高一）もヨサコイを踊り始めて八年とか、最初は娘（四十五歳？）と有名グループの一員として踊り…（北海道、東京他を踊り狂う）
私もカメラ片手に汗を吹き拭き「オッカケ」をしたものでした。
（前述の池上とは義兄弟の仲です）

（追伸）２

十月の六十周年土佐高二十八回生、ヨサコイ交流館（ハリマヤ町）に立ち寄って踊ってみませんか。